

よなぽん通信



米子市立図書館をもっと
知る！つかう！楽しむ！
情報 Paper

2026.1 Vol.5

100年前の米子を再発見しよう！

米子市立図書館には、米子に本社があった「山陰日日新聞」をはじめ、郷土の新聞を永久保存しています。これは全国でもここでしか見られない貴重な資料です。

今回のよなぽん通信では、「特に古い新聞」の利用についてご案内します。



明治41年の紙面

古い新聞は図書館のどこで読めるの？



米子市立図書館では、古い新聞を、2階カウンターで取り扱っています。閲覧には申請が必要です。

(1) どの新聞をご覧になるか (2) いつの年代をご覧になるかをお伝えください。書庫にしまっている新聞をお出しするか、デジタル化専用パソコンまたはデータベース専用パソコンを案内し見ていただきます。はっきりとしたことが分からない場合もご相談ください。

いつの年代の新聞が読めるの？



当館が所蔵する郷土の新聞は

- 『鳥取新報』 明治30年～昭和14年6月
 - 『山陰日日新聞』 明治41年4月～大正15年、昭和26年～38年
 - 『朝日新聞鳥取県版』 大正4年～現在
 - 『日本海新聞』 昭和21年～現在 などです。(欠号あり)
- 他にも全国紙の縮刷版やデータベースもあります。



A3の用紙に新聞一面を印刷することができます。
金額(モノクロ)1枚10円

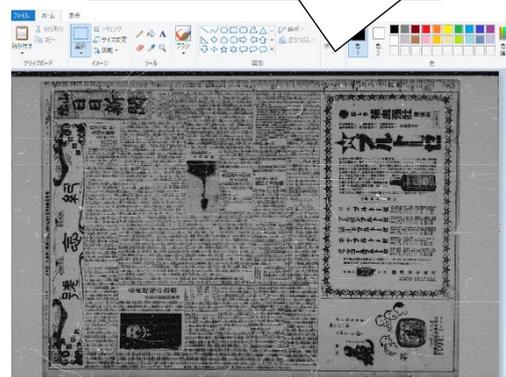
コピーはできるの？



著作権の範囲内でコピーが可能です。コピーには申請が必要です。古くて破れやすい新聞はデジタル資料を印刷します。職員にお声かけください。



古い新聞紙を傷めないために、ご協力お願いします！



新聞を利用した調べものはどんな感じ？



Q. 昭和20年代以降、米子市で作家の火野葦平が講演会を行った。その日付と内容について知りたい。



回答プロセス

(1) 火野葦平は鳥取県が舞台となる「蛇体新助^{じやたいしんすけ}」という話を書いている（火野葦平著『百年の鯉』（1958 筑摩書房）所収）。このあとがきによると、10月（年の記載はなし）に鳥取県西部の大山を訪れ、案内を米子市役所の安田教育長にしてもらったとある。同「蛇体新助」が雑誌で発表されたのは昭和33年1月号。直近の昭和32年10月に大山～米子を訪れている可能性が高いと推測。

(2) 安田教育長（安田光昭）著『あの人この人 私の交友録』77pに火野葦平が米子に訪れた際の様子が書かれている。当初、火野葦平の伯父にあたる瀧口氏より火野葦平に講演させてはどうかと打診があったこと、時期は火野葦平が亡くなる1～2年前だったことが書かれている（火野葦平が亡くなるのは昭和35年）。

(3) (1) (2) から推測し、郷土の新聞「山陰日日新聞」昭和32年10月の記事を確認。10月6日の新聞に火野葦平の明道小学校での講演会案内あり。また、10月9日の記事によると、火野葦平は昭和18年頃にも米子市内で講演会を行っており、今回が2回目の講演であるという記載があった。

分かったこと

講演会 昭和32年10月9日 講演タイトル「西洋と東洋」



米子市立図書館所蔵「山陰日日新聞 昭和32年10月6日」に、火野葦平氏の米子市明道小学校での講演会案内が掲載されている。

よなぼんひとくちメモ



皆さまからのレファレンス（資料相談）をきっかけにもの知りになれる。感謝感謝

